

歯源性腫瘍、嚢胞の WHO 分類 (2017 年改訂) について

歯源性腫瘍の WHO 分類は、2005 年以来 12 年ぶりに 2017 年に改訂された。また、炎症性嚢胞および発育性嚢胞の分類も併せて規定された。本ページでは、歯科医師国家試験に関連する疾患を中心に、2017 年分類について記載する。

【良性歯源性腫瘍】

良性上皮性歯源性腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ・エナメル上皮腫 ・エナメル上皮腫，単嚢胞型 ・エナメル上皮腫，骨外型／周辺型 ・転移性エナメル上皮腫 ・扁平歯源性腫瘍 ・石灰化上皮性歯源性腫瘍 ・腺腫様歯源性腫瘍
良性上皮間葉混合性歯源性腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ・エナメル上皮線維腫 ・原始性歯源性腫瘍 ・歯牙腫 <ul style="list-style-type: none"> ・歯牙腫，集合型 ・歯牙腫，複雑型 ・象牙質形成性幻影細胞腫
良性間葉性歯源性腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ・歯源性線維腫 ・歯源性粘液腫／歯源性粘液線維腫 ・セメント芽細胞腫 ・セメント質骨形成線維腫

【炎症性嚢胞，発育性嚢胞】

炎症性歯源性嚢胞 <ul style="list-style-type: none"> ・歯根嚢胞 ・炎症性傍側性嚢胞
歯源性ならびに非歯源性発育性嚢胞 <ul style="list-style-type: none"> ・含歯性嚢胞 ・歯源性角化嚢胞 ・側方性歯周嚢胞とブドウ状歯源性嚢胞 ・歯肉嚢胞 ・腺性歯源性嚢胞 ・石灰化歯源性嚢胞 ・正角化性歯源性嚢胞 ・鼻口蓋管嚢胞
【いわゆる「骨関連病変」(一部)】
線維骨性ならびに骨軟骨腫様病変 <ul style="list-style-type: none"> ・骨形成線維腫 ・家族性巨大型セメント質腫 ・線維性異形成症 ・セメント質骨性異形成症 ・骨軟骨腫

< 2005 年分類からの主な変更点 >

- ・2005 年分類では、良性歯源性腫瘍は、「歯源性上皮からなり、成熟した線維性間質を伴い、歯源性外胚葉性間葉組織を伴わない腫瘍」「歯源性上皮と歯源性外胚葉性間葉組織からなり、硬組織を伴うあるいは伴わない腫瘍」「間葉性あるいは歯源性外胚葉性間葉からなり、歯源性上皮を伴うあるいは伴わない腫瘍」「骨関連病変」の 4 つに分類されていたが、2007 年分類では「**良性上皮性歯源性腫瘍**」「**良性上皮間葉混合性歯源性腫瘍**」「**良性間葉性歯源性腫瘍**」の簡潔な 3 分類に改訂された。また「骨関連病変」とされていたものは、良性歯源性腫瘍からは独立して「**線維骨性ならびに骨軟骨腫様病変**」と規定された。
- ・2005 年分類の角化嚢胞性歯源性腫瘍は、2017 年分類では歯源性腫瘍から歯源性嚢胞に変更となり、「**歯源性角化嚢胞**」となった。
- ・2005 年分類の石灰化嚢胞性歯源性腫瘍は、2017 年分類では歯源性腫瘍から歯源性嚢胞に変更となり、「**石灰化歯源性嚢胞**」となった。
- ・2005 年分類で骨関連病変に分類されていた**骨形成線維腫**は、2017 年分類でも「**線維骨性ならびに骨軟骨腫様病変**」の項に分類されているが、これとは別に**良性間葉性歯源性腫瘍**として「**セメント質骨形成線維腫**」が新規に追加されている。